(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2011-125672
(P2011-125672A)
(43)公開日　平成23年6月30日(2011.6.30)

(51)Int.Cl.		F I		テーマコード（参考）
A47C 27/00	(2006.01)	A47C 27/00	B	3B096

審査請求 未請求　請求項の数 4　ＯＬ　（全 10 頁）

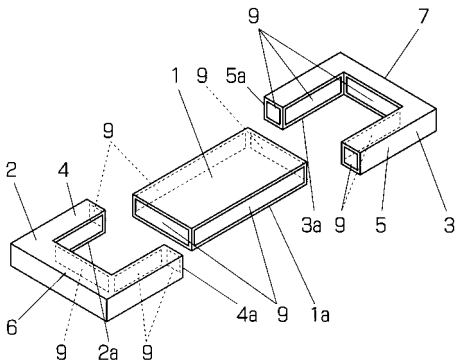
(21)出願番号　特願2010-95316(P2010-95316)
(22)出願日　平成22年4月16日(2010.4.16)
(31)優先権主張番号　特願2009-262146(P2009-262146)
(32)優先日　平成21年11月17日(2009.11.17)
(33)優先権主張国　日本国(JP)

(71)出願人　508255241
株式会社スリーピー
石川県金沢市西都１－２９０－１
(74)代理人　100078673
弁理士　西　孝雄
(72)発明者　宮崎　義也
石川県金沢市西都１－２９０－１　株式会社スリーピー内

Ｆターム(参考)　3B096 AC03

(54)【発明の名称】就寝用敷き具

(57)【要約】　（修正有）
【課題】寝具としての敷き具（敷布団ないしマットレス）に関し、寝心地を低下させることなく、狭い出入口やエレベータなどに搬送ないし搬入することが可能なベッド用マットレスを提供する。また、乳幼児ないし子供用の敷布団において、その成長に応じて布団の寸法を変えることができる構造の敷布団を提供する。更に、布団の一部が汚れたときに、布団を部分的に洗濯し、あるいは取り替えることができる敷き具を提供する。
【解決手段】両端を付き合せ接合することによって矩形の枠部を形成する上下のコ字形部材２，３ないし上下左右の辺部材と、この上下のコ字形部材２，３ないし上下左右の辺部材の両端を接合して形成された枠部の枠内にちょうど収まる１枚の中央部材１との分割構造の敷き具を提供する。中央部材１は、その上に横たわったときの人体の背中から腰までの部分を完全に支えることができるものとする。
【選択図】図２



【特許請求の範囲】
【請求項１】
端部相互を接合することにより矩形の枠部(20)を形成する複数個の部材と、当該枠部の枠内に収まる１枚構造の中央部材(1)とからなる分割構造とした、敷布団ないしベット用マットレス。
【請求項２】
前記複数個の部材が、前記接合によりコ字形部を形成する上辺部材(12)及び両側辺部材(14)と、このコ字形部に接合されて上記枠部を形成する下辺部材(13)との４個の細長い矩形部材である、請求項１記載の敷布団ないしベット用マットレス。
【請求項３】
２個のコ字形部材(2,3)と、この２個のコ字形部材(2,3)の両端部(4a,5a)を接合して形成される枠部(20)の枠内に収まる１枚構造の中央部材(1)との３分割構造とした、請求項１記載の敷布団ないしベット用マットレス。
【請求項４】
２個のコ字形部材(2,3)の身長方向の寸法(c,d)を等しい寸法とした、請求項３記載の敷布団ないしベット用マットレス。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
この発明は、寝具としての敷き具（敷布団ないしマットレス）に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
快適な睡眠のためには、就寝時に身体の下に敷く敷布団ないしマットレス（以下、「敷き具」という。）が身体を支えるのに充分な強度と弾力性を備えていることが必要であり、身体に当る部分、特に体重の多くが掛る背中から腰にかけての部分に継目や折目がないことが望ましい。
【０００３】
ベッドの上に載せてその上に薄い敷きマットないし敷布を掛けて使用するベット用マットレスは、通常、厚さ２０ｃｍ程度の１枚のものであり、その大きさは、シングルサイズと呼ばれる１００ｃｍ×２００ｃｍからキングサイズと呼ばれる１８０ｃｍ×２００ｃｍのものまで５段階のものが提供されている。ベッド用マットレスの内部構造としては、スプリングを内蔵したスプリングマットと呼ばれる構造、ウレタンフォームやラバーフォームなどの発泡体を用いた構造、薄く成形した綿を多数枚重ねた構造、これらを組み合わせた構造など、種々のものが提供されている。
【０００４】
日本で古くから用いられている中に綿の入った敷布団と呼ばれる就寝用の敷き具は、厚さが比較的薄く、面方向に二つ折りや三つ折りにして面積を１／２や１／３にできるようになっている。この種の敷布団は、厚さが比較的薄く、弾力性や冬期における保温性が十分でないため、この種の敷布団の下に敷いて使用する二つ折りや三つ折り構造のマットレスと呼ばれる敷き具が提供されている。この種のマットレスは、前述したベッド用マットレスと異なり、その上にある程度の厚さの敷布団を敷いて使用することを前提として作られている。
【０００５】
乳幼児や子供も就寝時には敷布団を使用する。乳幼児や子供用の敷布団は、その成長に合せて何種類かの面積の異なるものが用いられる。乳児用の敷布団などは、１、２年しか使用されないことが多く、排泄物などによって汚れることも多い。
【０００６】
寝具としてのマットレスや敷布団において、分割構造を採用する提案が例えば特許文献１～３によって行われている。特許文献１記載のものは、面方向にＮ字形に三つ折りにする中央部と、幅方向にＮ字形に三つ折りにする両側部との３つの部分に分離可能な構造と

している。各部を三つ折り構造としたので、９分割構造である。
【０００７】
特許文献２はウォータベッドに関するもので、ベッドの外周を形成する矩形の枠部分と、その枠の中に収められる複数に分割された中央部分とからなっている。中央部分の分割体は、身体の幅方向に細長い形状で、複数の分割体をその長手方向を身長方向と交差する方向にして枠部分の枠内に収めることにより、ウォータベッドを形成する。中央部分に加わる体重は、中央部分の各分割体を押し広げるように作用するので、枠体は、その広がろうとする力を抑えるだけの強度が必要であり、一体構造となっている。
【０００８】
更に特許文献３には、人体の頭部部分を受ける箇所、背中部分と腰部部分を受ける箇所、脚部部分を受ける箇所の３箇所に分割されたマットレスが示されている。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００９】
【特許文献１】特開２００２－２２３８９４号公報
【特許文献２】特開平８－２８９８２９号公報
【特許文献３】特開２００６－３４４７２号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【００１０】
ベッド用マットレスは、そのサイズに関わらず、メーカーから丸々一枚の大きさで小売店に納入される。小売店は、販売したマットレスを客に納品することとなるが、最近の住宅事情やアパート、マンション住まいの人口の増加等で、概ね中くらいの大きさのダブルサイズ（１４０ｃｍ×２００ｃｍ）以上のサイズのものは、納品の際、マットレスを階段から上げることができない、エレベーターに乗せることができないということが頻繁に起きて２階以上への搬入は難しくなり、窓やベランダからマットレスを吊り上げて納品するということが多々ある。
【００１１】
従来から敷布団の下に敷いて使用する折畳み式のマットレスがあるが、これは収納、持ち運びという点に重きを置いているため、厚みがなく、折り目の部分に腰や背中が当たることがあるため、寝具としては十分な機能があるとはいえない。ベッド用マットレスは、通常その上に薄い敷きマットを敷くか敷布を掛けるだけで使用されるので、折畳み可能にするためのマットレスの継目が就寝者の、特に背中から腰にかけての部分に当り、寝心地を大きく低下させる。
【００１２】
この発明は、ベッド用マットレスにおいて、寝心地を低下させることなく、比較的狭い出入口やエレベータなどに搬送ないし搬入することが可能なベッド用マットレスの構造を提供しようとするものである。また、この発明は、乳幼児ないし子供用の敷布団において、その成長に応じて布団の寸法を変えることができる構造の敷布団を提供しようとするものである。更にこの発明は、布団の一部が汚れたときに、布団を部分的に洗濯し、あるいは取り替えることができる敷き具を提供しようとするものである。
【課題を解決するための手段】
【００１３】
この発明は、上記課題を解決した就寝用の敷き具として、両端を付き合せ接合することによって矩形の枠部２０を形成する上下のコ字形部材２、３と、この上下のコ字形部材２、３の両端を接合して形成される枠部２０の枠内にちょうど収まる１枚の中央部材１との３分割構造の敷き具を提供するものである。
【００１４】
またこの発明は、上記課題を解決した就寝用の敷き具として、両端を接合することによって矩形の枠部２０を形成するそれぞれが細長矩形の上辺部材１２、下辺部材１３及び左

右の側辺部材１４と、この上下左右の４個の辺部材相互を接合して形成される枠部２０の枠内にちょうど収まる１枚の中央部材１との５分割構造の敷き具を提供するものである。

【００１５】

中央部材１は、その上に横たわったときの人体の背中から腰までの部分を完全に支えることができるものとする。より完全には、敷き具の上に仰臥した就寝者の首から少なくとも膝上まで、望ましくは足下までの部分をその肩幅より広い幅で支えることができる面積を備えたものとする。子供用の敷布団の場合は、対象とする身長範囲の最大身長の子供が使用したときに、当該子供の首から少なくとも膝上の部分が、その肩幅より広い範囲で支えられる寸法とする。

【００１６】

３分割構造における上下のコ字形部材２、３は、敷き具の側辺部に位置する側部４、５の幅ｄを等しい寸法とし、かつ好ましくは、身長方向の寸法ｃ、ｄを等しい寸法とする。上下のコ字形部材２、３は、その両端部４ａ、５ａすなわち側部４、５の先端相互を面方向に折畳み自在に連結した構造とすることもできる。この場合、組み立てられた敷き具の総面積に相当する可撓性のシート８ないし薄いマットで、上下のコ字形部材２、３を折畳み可能に連結することができる。

【００１７】

上下のコ字形部材２、３の上辺部６及び下辺部７の身長方向の寸法ｆ、ｇは、同一寸法である必要はない。一般的に使用される枕の身長方向の寸法が４３ｃｍであることを考慮すると、上辺部６の身長方向の寸法ｆは、２０～４０ｃｍ程度であることが好ましい。特に差支えがなければ、下辺部の身長方向の寸法ｇも上辺部の寸法ｆと同寸法にして、コ字形部材の身長方向の長さｃ、ｄも同一寸法とすれば、同一形状のものを２つ作ればよいので、製造や在庫管理が便利である。

【００１８】

一方、子供用の敷布団の場合には、敷布団全体の寸法を子供の成長に応じて何段階かに変更できるように中央部材１の寸法を同一寸法とした上で、上下のコ字形部材２、３の寸法ｃとｄを変える必要があり、その場合には、上辺部６の身長方向の寸法ｆをほぼ一定とし、下辺部７の身長方向の寸法ｇを変えることによって組み立てたときの敷布団全体の長さを何段階かに変更できるようにするのがよい。一般的に言えば、下辺部７の身長方向の寸法ｇを上辺部６の寸法ｆと異なる寸法にした場合であっても上下のコ字形部材２、３の身長方向の長さｃ、ｄは同一とするのが好ましい。

【００１９】

分割された上下のコ字形部材２、３及び中央部材１の組み立てたときに付き合わされる面には、適宜面ファスナ９を設けて使用時にこれらの当接部に隙間が生じたりずれたりしないようにするのが好ましい。

【００２０】

５分割構造では、図５、６に示すように、側辺部材１４の端部（小口端）と上下の辺部材１２、１３の内側面端部とを接合して枠部２０を形成するのが好ましい。そのようにすれば、上下の辺部材１２、１３の長さと側辺部材１４の長さとを近い寸法にできるから、運搬や梱包・収納に便利である。

【００２１】

上記の５分割構造における上下の辺部材１２、１３は、上記の３分割構造におけるコ字形部材２及び３の上辺部６及び下辺部７を切離した形状及び寸法とする。また、側辺部材１４は、上記の３分割構造におけるコ字形部材２及び３の側部４、５相互を繋ぎ合わせた形状及び寸法とする。側辺部材１４の身長方向の寸法は、中央部材１の身長方向の寸法と同じとするのが良く、このときは、上下の辺部材１２、１３の身幅方向の寸法は、上記の３分割構造におけるコ字形部材２、３の身幅方向の寸法（敷き具の幅方向寸法）となる。

【００２２】

分割された上辺部材１２、下辺部材１３、側辺部材１４及び中央部材１の組み立てたときに付き合わされる面には、適宜面ファスナ９を設けて使用時にこれらの当接部に隙間が

生じたりずれたりしないようにする。好ましい５分割構造では、上辺部材１２及び下辺部材１３の付き合わされる面は、内側面であり、側辺部材１４の付き合わされる面は、内側面と両小口面（長手方向の端面）である。

【００２３】

あまり実用的ではないが、この発明の敷き具は、上記５分割構造における側辺部材１４を更に長手中央で２分割した７分割構造（図１０）とすることも可能であり、また、２個の平面Ｌ形部材と中央部材との３分割構造（図１１）とすることもできる。この３分割構造における２個のＬ形部材は、上記５分割構造における側辺部材１４の一方と上辺部材１２を一体化し、他方の側辺部材１４と下辺部材１３を一体化した構造である。

【発明の効果】

【００２４】

納品時にマットレスを分割することにより、キングサイズなどの大型のマットレスであっても、納品をスムーズに行うことができる。人間の寝姿勢は体のラインを面で支えてくれるものが良いといわれ、寝姿勢で体重が最もかかる部分は背中から腰にかけての部分である。この発明の敷き具は、背中から腰にかけてのラインに従来のマットレスと同じ機能を持たせることによって良い寝心地を確保できる。睡眠時には体重の７０％をマットレスの真ん中の部分で支えていると言われており、この発明の敷き具は、中央部材１の部分でほぼ人体の主要部を受け止めることができる。

【００２５】

更にこの発明の敷き具は、分割構造としたので、どこかの部分が傷んでも丸ごと買い替えではなくて低いコストで傷んだ部分だけの交換が可能になる。子供用の敷布団に採用したときは、ベビー用の敷布団として中央部材１のみを使い子供の成長に合わせて上下のコ字形部材２、３ないし上下左右の辺部材１２、１３、１４を買い足すことができる。買い足すことで丸々買い替えの必要がなくなり、長く使うことができて省資源や経済性の面でも有利である。分離式なので、子供用や高齢者等の介護用に使用し、中央部材１が汚れても簡単に洗濯や買い替えができるため清潔な状態で布団を使える。乳児用の布団は１、２年しか使用できないのが通例であるが、この発明の構造を採用することにより、長く使用でき、また廃棄することにも便利な敷き具を提供することができる。

【図面の簡単な説明】

【００２６】

【図１】この発明の３分割構造のベッド用マットレスの例を示す斜視図

【図２】図１のマットレスの分解斜視図

【図３】図１のマットレス全体を覆うシートで上下のコ字形部材を折畳み可能に接合した構造を示す図

【図４】図３の構造のマットレスにおいて上下のコ字形部材の折畳み状態を示す斜視図

【図５】この発明の５分割構造のベッド用マットレスの例を示す斜視図

【図６】図５のマットレスの分解斜視図

【図７】３分割構造を子供用の敷布団に採用した例を示す平面図

【図８】５分割構造を子供用の敷布団に採用した例を示す平面図

【図９】５分割構造の他の例を示す斜視図

【図１０】７分割構造の例を示す斜視図

【図１１】他の３分割構造の例を示す斜視図

【発明を実施するための形態】

【００２７】

図１及び図２は、ベッド用マットレスにおける３分割構造の実施形態の一例を示した図である。マットレス１０は、上コ字形部材２、下コ字形部材３及び中央部材１の３分割構造で、図１に示す組み立てたときの寸法がダブルサイズからキングサイズと呼ばれるベッドのサイズに合った大きさのものである。分割された各部の寸法の一例を示すと、組み立てたときのマットレス全体の寸法が幅１４０ｃｍ、長さ２００ｃｍ、厚さ２０ｃｍのダブルサイズのマットレスの場合において、中央部材１の幅ａ＝１１０ｃｍ、中央部材１の長

さｂ＝１７０ｃｍ、上下のコ字形部材２、３の身長方向の長さｃ＝ｄ＝１００ｃｍ、コの字形の側部４、５の身幅方向の幅ｅ＝１５ｃｍ、上辺部６の身長方向の寸法ｆ＝２０ｃｍ、下辺部７の身長方向の寸法ｇ＝１０ｃｍである。

【００２８】

マットレス１０の厚さは、１枚もののマットレスと同様に一般的には２０ｃｍの厚さとする。中央部材１及び上下のコ字形部材２、３の内部構造は、従来のマットレスで用いられている構造と同様な構造とする。この内部構造は、基本的には中央部材１と上下のコ字形部材２、３で同一構造とするが、場合によっては中央部材１と上下のコ字形部材２、３とで異なる構造や材質を用いることができる。この場合、体重の多くを支え、寝心地に大きな影響を与える中央部材１の構造ないし材質を上下のコ字形部材２、３より高級な構造ないし材質とするのが良い。

【００２９】

中央部材１の周面１ａ及び上下のコ字形部材２、３のコの字の内面２ａ、３ａ及び上下のコの字の両端面４ａ、５ａには、互いに当接する位置に対向させて面ファスナ要素９を取り付ける。組み立てたとき、この面ファスナ要素９相互が締着することにより、中央部材１と上下のコ字形部材２、３の組立状態が安定に保持される。

【００３０】

図３及び図４は、ベッド用マットレスにこの発明の構造を採用した場合において、上下のコ字形部材２、３相互をマットレス全体の面積を備えた折畳み可能な薄いシート８で折畳み可能に連結した構造を示した図である。図に示すように、上下のコ字形部材２、３の両端面４ａ、５ａを付き合わせた状態で、その表面全体を覆うようにシート８ないし薄いマットが取り付けられている。すなわち、上下のコ字形部材２、３は、連結シート８によって一体化されており、両者の両端部４ａ、５ａで図４に示すように、面方向に二つ折りすることができる。この構造の場合、シート８を上面にして使用すれば、中央部材１と上下のコ字形部材２、３の接合部が開いたりずれたりするのを防止することができ、中央部材１と上下のコ字形部材２、３の接合部に触れたときの違和感を低減することができる。

【００３１】

図５及び図６は、５分割構造のベッド用マットレスの一例を示した図である。マットレス１０は、上辺部材１２、下辺部材１３、両側辺部材１４及び中央部材１の５分割構造で、図５に示す組み立てたときの寸法がダブルサイズからキングサイズと呼ばれるベッドのサイズに合った大きさのものである。中央部材１の幅ａ、長さｂ、上辺部６の身長方向の寸法ｆ、下辺部７の身長方向の寸法ｇ、側辺部材１４の身幅方向の幅ｅは、３分割構造で説明した各寸法と同じで良く、側辺部材１４の身長方向の長さは中央部材１の伸張方向の長さｂと同じである。

【００３２】

マットレス１０の厚さや中央部材１の内部構造は、３分割構造で説明した厚さ及び内部構造と同様である。また、上下左右の辺部材１２、１３、１４の内部構造は、３分割構造におけるコ字形部材２、３の内部構造と同様である。

【００３３】

中央部材１の周面１ａ、上辺部材１２及び下辺部材１３の内側面１２ａ、１３ａ、両側辺部材１４の内側面１４ａ及び両小口面１４ｂには、互いに当接する位置に対向させて面ファスナ要素９を取り付ける。組み立てたとき、この面ファスナ要素９相互が締着することにより、中央部材１と上下及び両側の辺部材１２、１３、１４の組立状態が安定に保持される。

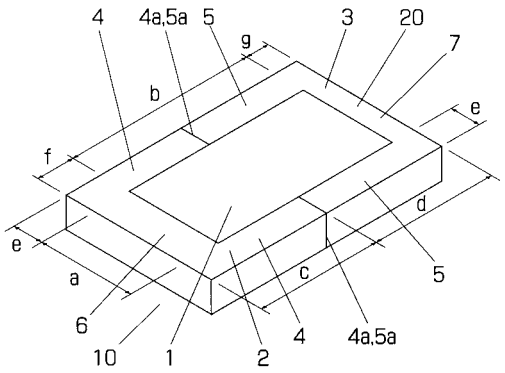
【００３４】

図７は、３分割構造を子供用の敷布団に採用した例を、図８は５分割構造を子供用の敷布団に採用した例をそれぞれ示した平面図である。図７の例では、１個の中央部材１に対して２種類の寸法の上下のコ字形部材２、３及び２１、３１が用意されている。また図８の例では、１個の中央部材１に対してそれぞれ２種類の寸法の上辺部材１２、１２１、下辺部材１３、１３１及び両側辺部材１４、１４１が用意されている。

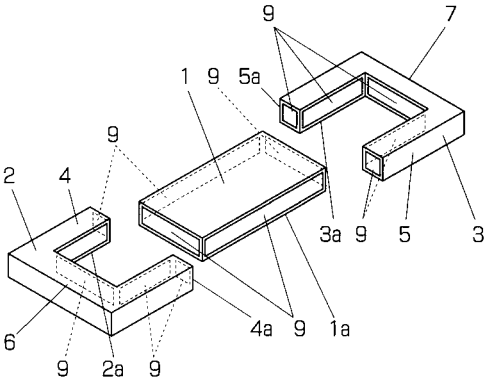
【００３５】
中央部材１は、寸法の大きいコ字形部材２１、３１を組合わせた図７（ｃ）に示す状態で使用する際に、又は、寸法の大きい上下左右の辺部材１２１、１３１、１４１を組合わせた図８（ｃ）に示す状態で使用する際に、使用する子供の首から膝上までの部分が、その肩幅より広い幅で支えられる寸法とする。
【００３６】
子供が最初に使用するとき、例えば乳児であるときは、中央部材１のみで使用する。子供が成長して布団が小さくなったら、寸法の小さい方の上下のコ字形部材２、３又は上下左右の辺部材１２、１３、１４を用意して、従来使っていた中央部材１と組み合わせた図７（ｂ）又は図８（ｂ）の態様で使用する。子供が更に成長したら、寸法の小さい上下のコ字形部材２、３又は上下左右の辺部材１２、１３、１４を寸法の大きいコ字形部材２１、３１又は上下左右の辺部材１２１、１３１、１４１と交換して図７（ｃ）又は図８（ｃ）の態様で使用する。
【００３７】
寸法の小さい上コ字形部材２の上辺部６及び寸法の小さい上辺部材１２の身長方向の寸法ｆと、寸法の大きい上コ字形部材２１の上辺部６１及び寸法の大きい上辺部材１２１の身長方向の寸法ｆ１とは、ほぼ同寸法とする。一方、寸法の大きい下コ字形部材３１の下辺部７１及び寸法の大きい下辺部材１３１の身長方向の寸法ｇ１は、寸法の小さい下コ字形部材３の下辺部７及び寸法の小さい下辺部材１３の身長方向の寸法ｇより大きくして、布団全体の寸法が大きくなることに対応させる。
【００３８】
このような分割構造の敷布団３０は、その一部が汚れたり破れたりしたときに、その部分のみを交換することが可能である。従って例えば、布団の中央部材１が排泄物などによって汚れたときに、中央部材１のみを買い替えて使用することができる。
【００３９】
上記は子供用の敷布団の例であるが、同様な構造を例えば高齢者の敷布団として用いることによって、汚れたり痛んだりしやすい中央部材１のみを頻繁に洗濯したり交換したりして使用すれば、少ない労力及び費用で快適な寝具を提供できるという効果がある。なお、敷布団に３分割構造を採用した場合には、図３、４に示したように、上下のコ字形部材２、３及び２１、３１を敷布団全体の大きさのシート８によって連結した構造を採用することもできる。
【００４０】
また３分割構造の敷き具１０、３０全体を覆う大きさの繋ぎシート８を上下のコ字形部材２、３の周縁に沿ってファスナで着脱自在に取り付ける構造とすることができる。この場合、上コ字形部材を取り付ける上ファスナ２２と、下コ字形部材を取り付ける下ファスナ３２との２つのファスナを用い、すなわち両ファスナ２２、３２の始点と終点が上下のコ字形部材２、３の付き合せ接合される両端の位置とすることにより、繋ぎシート８の交換や上下のコ字形部材２、３の一方の交換も可能にできると共に、ファスナ２２、３２が上下のコ字形部材２、３の付き合せ部におけるシート８の屈折を妨げる問題や屈折によりファスナが損傷する問題を防止できる。
【符号の説明】
【００４１】
１　中央部材
２　上コ字形部材
３　下コ字形部材
４　上コ字形部材の側部
５　下コ字形部材の側部
４ａ　上コ字形部材の両端部
５ａ　下コ字形部材の両端部
８　繋ぎシート

９　面ファスナ要素
１０　マットレス
１２　上辺部材
１３　下辺部材
１４　側辺部材
２０　枠部
３０　敷布団

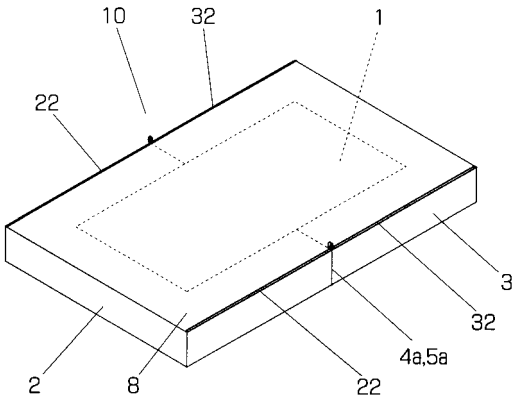
【図１】



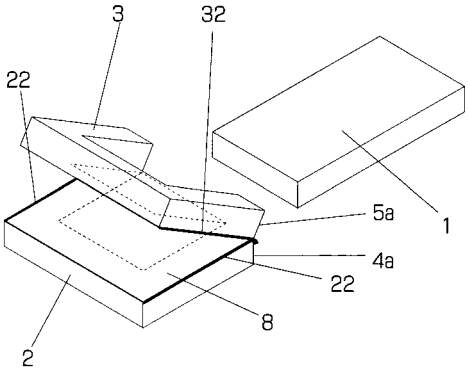
【図２】



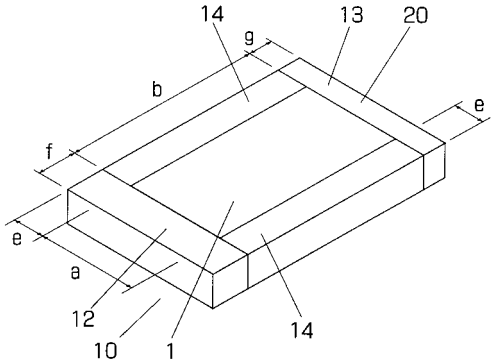
【図３】



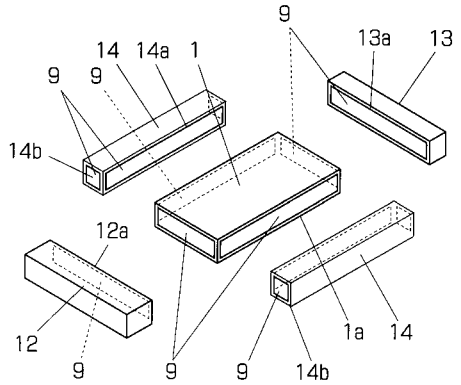
【図４】



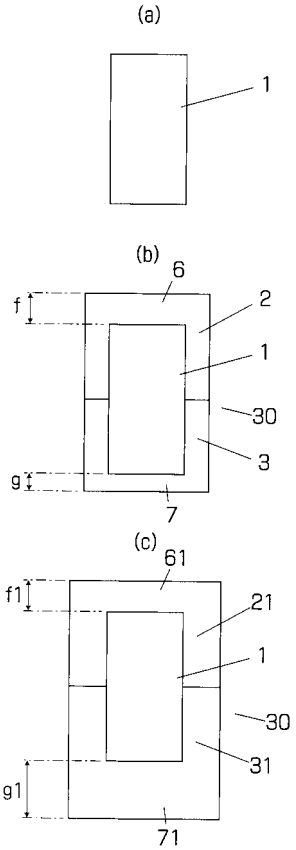
【図５】



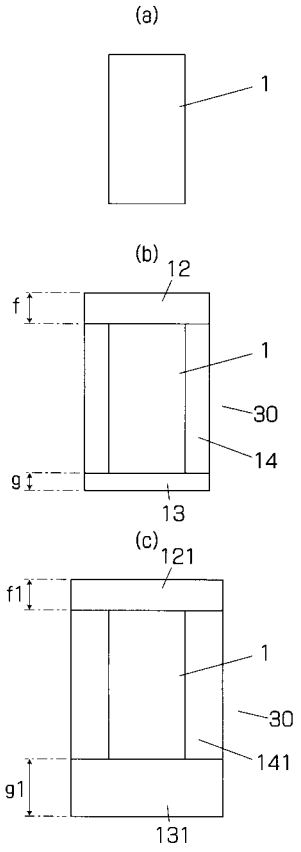
【図６】



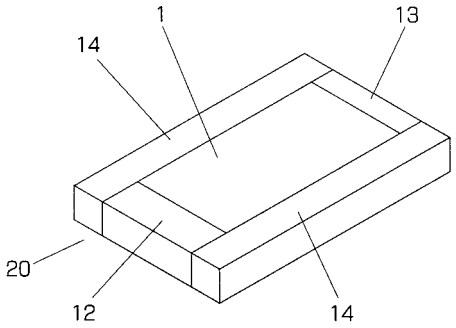
【図７】



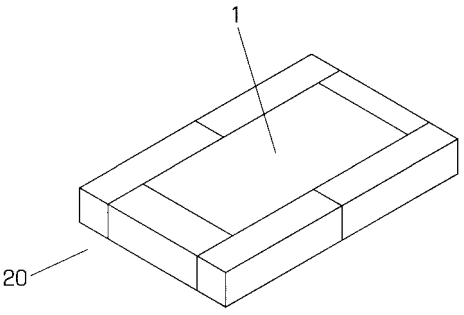
【図８】



【図９】



【図１０】



【図１１】

